

## 授業概要

現代の国際社会を考えるうえで、異文化接触や多民族共生の問題は重要である。本講座では、前半では、異文化コミュニケーション論の基礎知識を学び、後半では、実例として、ユーラシアにあった前近代の世界帝国や近代の多民族国家の歴史を紐解きながら、様々な出自を持つ人々の共存のあり方を探る。授業を通して、世界の文化、思想、歴史などに関する専門的知識を修得し、それらの知識を生かして国際化する社会に貢献できる力を付ける。

## 授業計画

第1回	導入
第2回	異文化コミュニケーションの諸概念1（文化とは何か）
第3回	異文化コミュニケーションの諸概念2（言語）
第4回	異文化コミュニケーションの諸概念3（宗教と民族）
第5回	異文化コミュニケーションの諸概念4（人種と差別）
第6回	異文化コミュニケーションの諸概念5（異文化共存と教育）
第7回	オスマン帝国1（帝国の成立と発展）
第8回	オスマン帝国2（帝国の完成と西欧の衝撃）
第9回	オスマン帝国3（帝国の解体からトルコ民族の国家へ）
第10回	ロシアとソ連邦1（キリスト教帝国の拡大）
第11回	ロシアとソ連邦2（世界帝国と革命運動）
第12回	ロシアとソ連邦3（社会主義と民族問題）
第13回	ロシアとソ連邦4（ソ連邦の解体）
第14回	ヨーロッパ統合1（その成立）
第15回	ヨーロッパ統合2（その拡大と変質）
第16回	試験

## 到達目標

歴史上には広大な地域と多種多様な人間集団を支配した国家がある。こうした国家はどのようにして人々を共存させたのか、あるいはなぜそれがうまくいかなかったのかを学ぶことで、現在の国際社会で生きていくための指針を見出す。

## 履修上の注意

基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、不安を感じる受講希望者は、履修するまでに教科書などでイスラーム史とロシア史、第二次大戦後のヨーロッパの箇所を復習しておくこと。

## 予習復習

プリントを配布するので、講義で出てきた異文化コミュニケーション論上の概念や歴史用語については、しっかり復習すること。

## 評価方法

学期末試験（90%）および講義への貢献度（10%）で総合的に評価する。

## テキスト

特に指定しない。講義中に参考図書のリストを配布する。